澤田先生の思い出

神戸大学附属中等教育学校　岡本　利昭

澤田先生と初めてお会いしたのは、震災の前、平成五年ごろではなかっただろうか。「両輪の会」が浜本先生の研究室から場所をうつし、六甲道にある、神戸大学学而荘で毎月一度、土曜日に行われるようになったころだと思う。私は大学を出たばかりで、意欲はあるものの、授業の進め方に右往左往していたころだった。「両輪の会」は当時、は私たち神戸大を卒業してまもない者から、澤田先生のように十分にキャリアをお持ちの方までさまざまな方が参加されていた。澤田先生も確か、現職のまま神戸大の大学院に在籍されていての参加だったと思う。

両輪の会でわれわれ、卒業間もない者の発表に適切にご自身の御経験を踏まえてアドバイスくださったのをよく覚えている。そして、そのなかでも特に、澤田先生の御発表、御研究で忘れてはならないのが、「枠組み作文」だ。

作文指導を進める際、どこに焦点を当てて、どう言葉にしてゆくかを指導することに苦労することが多いが、「枠組み作文」は、どう言葉にしてゆくかについての見事な指導方法である。澤田先生の両輪の会での発表を、最初に聞いたときにも驚きがあったが、雑誌『両輪』に次々と、枠組み作文（たい焼きエッセイ）の実践の手法と、我が国の作文指導の歴史を明治時代から順に簡潔に論文にまとめられたときにも尊敬の念を禁じえなかったのを今も覚えている。

縁あって、現在、総合単元学習が附属住吉・明石中学校時代から実践されている神戸大学附属中等教育学校に勤務させてもらっているが、澤田先生御考案の「枠組み作文」の実践手法を同僚に紹介したところ、「非常にわかりやすい」「書きやすい」という高い評価を受けている。澤田先生の手法が高等学校だけでなく、中学校、さらに附属小学校を通じて、小学校での有力な作文指導法としても広がっていっている。

「枠組み作文」の指導法は、『両輪の会』に縁のある諸学校をとおして、これからも指導し続けられてゆく。「枠組み作文」は澤田先生のご功績、澤田先生の思い出とともにこれからも永く生き続けてゆく。最後に、澤田先生、様々なご指導ありがとうございました。